

I 早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験

(実施期間：平成29年度～令和3年度 予算区分：県単 担当：池本省吾)

1 目的

近年、植栽から15～30年程度で収穫できる「早生樹」は、里山・耕作放棄地の有効利用に繋がる可能性がある。そこで、早生樹を利用した短伐期林業の技術開発及び育林技術の体系化を図る。

2 実施概要

(1) 方法

早生樹を植栽する際の基礎資料とするため、センダン（H29年度・県内3カ所）、コウヨウザン（R元、2年度・県内5カ所）植栽試験地について、植栽木の成長等を調査した。

(2) 結果

表のとおり。今後も成長量等調査を継続していく予定である。

3 結果の図表と研究の様子

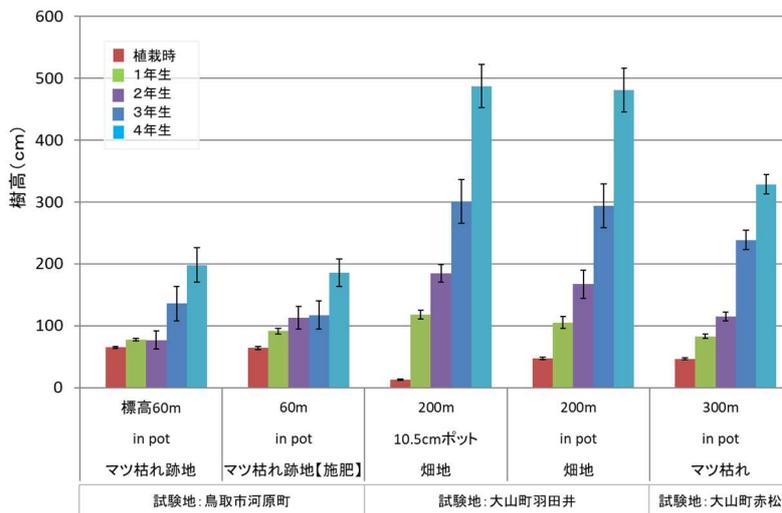


図1 センダン植栽試験地毎の成長経過

【センダン】

4年生の樹高の平均は、試験地により大きくばらついた(185cm～482cm)。鳥取市河原試験地ではシカによる幹の剥皮害がみられ、他の試験地に比べて成長が劣った(図1)。

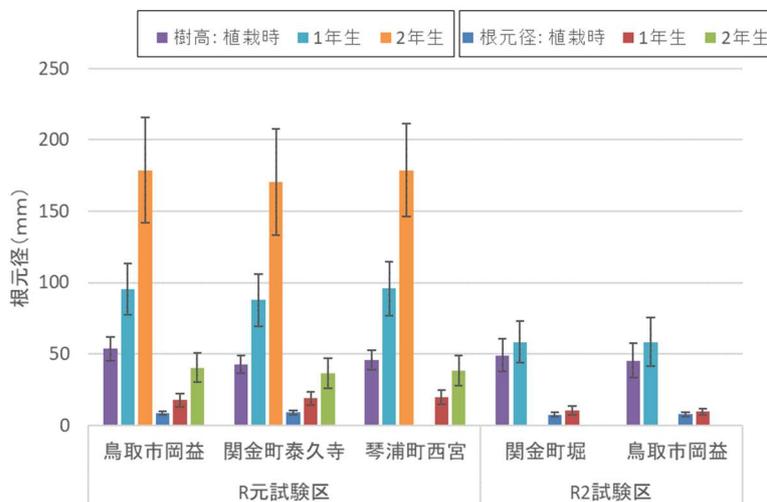


図2 コウヨウザン植栽試験地毎の成長経過

【コウヨウザン】

○R元年度試験地では、2年生の生存率は97～100%、樹高及び根元径は植栽時の3倍以上に成長した(図2)鳥取市岡益試験地では根元からの倒伏、関金町泰久寺試験区ではわずかに兎食害がみられた。

○R2年度試験地では、1年生の生存率は91～95%で、樹高、根元径の成長もR元年度試験地に比べて低かった(図2)。